

## 協議会委員等 連携課題

	連携における 課題、困りごと	解決策等
医師	<ul style="list-style-type: none"> <li>・在宅診療医（往診医）少ない</li> <li>・市外医療機関との連携困難</li> <li>・CMからの連絡で診療の妨げになることがある</li> <li>・在宅の歯科医や薬剤師との連携不足</li> <li>・連携ツール未確立</li> <li>・在宅医療推進の資源確保（医師、薬剤師、訪問看護等の在宅医療参入促進少ない）</li> <li>・薬局との連携（衛生器材調達等連携）</li> <li>・病院との連携（後方病床がない）</li> <li>・市役所現在の1部署では対応範囲を越えていること（医療と介護連携別々）</li> </ul>	<input type="checkbox"/> セミナー開催 <input type="checkbox"/> 協議会開催 <input type="checkbox"/> 医師会内での広報研修 <input type="checkbox"/> 多職種研修 <input type="checkbox"/> 連携ルール統一作成整備（支えあい手帳・シズケア活用促進等） <input type="checkbox"/> 在宅医療推進員設置 <input type="checkbox"/> 薬局連携 <input type="checkbox"/> 訪問看護充実 <input type="checkbox"/> 市の体制整備（浜松藤枝参考）
歯科医師	<ul style="list-style-type: none"> <li>・顔の見える関係がない</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 多職種連携研修等
薬剤師	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報交換不足</li> <li>・話し合う場の不足</li> <li>・連絡方法が様々で統一していない</li> <li>・患者の行方に関する情報が入らない、知る手立てがない（入院入所等々）</li> <li>・退院後等在宅に戻った時、入院中の情報があるとよいがない</li> <li>・在宅訪問実施の薬局が少ない</li> <li>・情報提供先がわからない</li> <li>・かかりつけの患者の情報提供先がわからない（入院した？入所した？他？）</li> <li>・市外病院との情報連携困難</li> <li>・訪問薬剤開始の際の患者情報不足</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 情報交換の場 <input type="checkbox"/> 情報共有方法統一 <input type="checkbox"/> 連携方法の統一 <input type="checkbox"/> 相談窓口設置 <input type="checkbox"/> 各種会議への参加（地域ケア会議、退院CF、サービス担当者会議等） <input type="checkbox"/> 協議会継続開催 <input type="checkbox"/> 症例報告検討会開催 <input type="checkbox"/> 勉強会開催 <input type="checkbox"/> ICT共有システム活用 <input type="checkbox"/> 施設担当薬局は近隣薬局にする（包括ケア観点からも）
訪問看護師	<ul style="list-style-type: none"> <li>・退院指導等の情報不足で方向性や生活状態がわからずサービス導入等困ることがある。</li> <li>・専門職毎で見方感じ方が違い同じ方向を向いて在宅支援していけないことがある。</li> <li>・在宅診療医（往診医）少ない</li> <li>・緊急時の医師との連絡体制</li> <li>・担当者会議以降連携の場がない、取りにくい</li> <li>・在宅医療情報不足。一覧等ほしい（往診、往診種類、医療処置内容等）</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 退院時CF、退院時訪問への参加 <input type="checkbox"/> 定期的連携（顔見える関係） <input type="checkbox"/> 共通の連携ツール、共通ノート共有（袋井市みどりのノート参考） <input type="checkbox"/> 在宅医一覧表ほしい（磐田市在宅医ハンドブック参考）

在宅医ハンドブック：往診、小児、難病、人口呼吸装置  
者対応可否等々一覧になっている

ケアマネジャー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・異職種業務への理解不足</li> <li>・市外の医療機関との連携が取りにくい</li> <li>・歯科医師との連携がほとんどない</li> <li>・医療介護連携の現状が把握することができない</li> </ul>	<input type="checkbox"/> テーマ別研修会、グループワーク <input type="checkbox"/> テーマ別ワーキンググループ設置
包括支援センター	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療機関との連携時、退院調整部門と、病棟情報のずれがあり困ることがある</li> <li>・異職種への相談質問が難しい、しにくい</li> <li>・在宅診療医（往診医）がわからない</li> <li>・薬剤師栄養士と連携取りたいが取り方がわからない</li> <li>・精神、認知、医療依存等々個々に応じた相談先へのつなげ先やつなげ方が難しい。</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 多職種業務を知る <input type="checkbox"/> オ）相談センター設置 <input type="checkbox"/> 連携様式の統一
リハビリ職	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内容に応じた連携先がわからず継続したリハ提供が困難</li> </ul>	
病院相談員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報提供書の有無や書式まちまち</li> <li>・病院側と、退院後の支援関係者意見のずれを感じる、合わせる場がない。（CMが治療内容に関係なく家族に退院アドバイス、福祉用具の選定時病院PT相談なく決まっている）結果退院が伸びてしまうこともある。</li> <li>・通入院患者の情報提供不足（医療機関から事業所へ）</li> <li>・医療機関側と在宅支援者側との意見の違いにより退院が伸びてしまうことがある、意見を合わせる場がない</li> <li>・相談窓口がわからないことがある（精神 65 未満介保なし等）</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 情報共有ツール統一 <input type="checkbox"/> 相談室の利用促進
事業所	<ul style="list-style-type: none"> <li>・退院後の医療側の情報が入りにくい。本人家族に確認のみで確実でないことがある</li> <li>・介護施設等への理解がない医師がおり連携しにくい</li> <li>・在宅診療医（往診医）不足</li> <li>・担当者会議への主治医参加してほしいときがある</li> <li>・病院相談室と病棟Nsとで方向が違うことがあり困ることがある。</li> <li>・病院ごとの相談支援室のかかわりが違うので戸惑う</li> <li>・転院等時CMへの連絡なく困る</li> <li>・薬局との連携が取れていない。</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 担当者会議への医療関係者参加 <input type="checkbox"/> 全体の研修会実施 <input type="checkbox"/> 顔が見える関係が作れる研修会実施 <input type="checkbox"/> 往診医を増やす <input type="checkbox"/> 薬剤師が訪問システムあるとよい <input type="checkbox"/> 開業医に相談員設置してはどうか <input type="checkbox"/> 担当者会議への関係職種全参加（医師薬剤師も） <input type="checkbox"/> 薬の手帳の中身改良（独居認知等記載）

同じツール 方法統一

在宅医療推進員ができることが多い（往診や往診医療内容のとりまとめ等々）